

一般社団法人奈良青年会議所  
2020年度理事長 森田洋平

## One Step Ahead

～未来への夢を語り一歩踏み出そう～

### 【はじめに】

私たちはなぜ、青年会議所運動を発信し続けるのでしょうか。限られた時間の中で仕事や家族との時間を調整しながら、どうして自分はこんなに時間を割いて頑張っているのだろうと長い間、考えていました。しかし、私個人から視点を移し、まち全体のことを考えると、私たちが住む奈良のまちには課題が山積みです。そしてそれらの課題は行政や特定の誰かが解決してくれるものではありません。これらの課題を解決しなければ、ゆくゆくは会社や自分の家族や仲間に悪い影響を及ぼします。私たちは自分たちが住み暮らす奈良のまちを明るい豊かな社会に近づけるために日々、精を出し、その結果、自分の身近なものを守ることにつながっているのです。

誰かがやってくれるだろうではなく、みんなのために自分たちが頑張る。利他のために情熱を燃やすことが私たちの使命なのだ気づいたとき、私の人生は大きく変わり、成長への階段を登り始めたように思います。同じように人々の意識に変革を与え、人々がそれぞれの個性を発揮し、調和をもって行動したとき、限りない情熱が溢れ出し地域を活性化させると信じています。

### 【愛郷心の醸成】

私は奈良で生まれ育ちました。大学進学、就職の際に一時期、奈良を離れ都心部で暮らしていたことがありますが、その後、家業を継ぐためにまた奈良のまちに帰ってきました。友人の中には、そのまま都会に残り、奈良のまちには何年も帰っていないという者も少なくありません。

奈良県は常に県外就職者比率が全国上位に入り、多くの若者が大人になると県外で暮らすようになります。しかしながら、奈良のまちには他にはない観光資源や豊かな自然など、都会にはない素晴らしい点がたくさんあり、人と自然が共存し、歴史と神仏に対する畏敬の念が息づくまちとなっています。これは一度奈良を出て、他のまちで暮らして初めて感じることもできますことでもあります。

まずは、私たち自身が奈良のまちのことをよく知り、どこに課題があるのかを理解することが必要です。そして、故郷を愛し、故郷のまちに誇りを持つ人を増やすべく運動

を発信していかなければなりません。

今日の社会は便利で効率的になりましたが、人と人のつながりが薄れ、世代間や地域間の交流がなくなってきています。その結果、子どもは尊敬できる大人とふれあい、学びを得る機会が減少し将来の夢を描けなくなりました。そして大人は老害という言葉に怯え、培ってきた経験を世の中のために役立て貢献するということが難しくなっています。世代間・地域間で人々の関係性が希薄化したことにより、人々は、自分は一人で生きていると錯覚し、他人への配慮が欠けた自分本位の考え方を持つようになってしまいました。そして、周りへの感謝を失った人々は住み暮らす地域への愛情をも失ってしまうのです。

私たちはもう一度、地域が昔から持つつながりを見つめ直し、誰ひとり取り残さない地域を創造しなければなりません。そのような地域では、周りの人々への感謝の気持ちがあふれ、人々が互いに助け合い知恵を出し合いながら、自らが自分たちの地域を育て、愛郷心に満ち溢れた地域となります。

ただ、青年会議所の会員だけでは、何事もなしえることはできません。行政や地域の方とパートナーシップを構築し、より多くの人を巻き込んで、地域の人々の考えや行動を変えていかなければなりません。

#### 【青少年の笑顔のために】

現在、子どもの自制心の欠如や規範意識の希薄化、生活習慣の悪化など、心身ともに多くの課題が顕在化しています。このような時代に、青少年に今必要とされるものは、高い志を持って周りに惑わされずに自分で考え判断する「自ら考える力」と、いかなる困難にも打ち負けることなく、他者との調和を重んじながらも未来を切り拓いていく「行動力」であると考えます。

本年は東京五輪が開催されます。スポーツの祭典を通して、青少年は正々堂々と戦い、夢を追いかけ、達成することの尊さを学ぶはずですが、この世界が注目するイベントは東京だけでなく日本全国の青少年に素晴らしい力を与えるでしょう。

次世代を担う青少年に対し、挑戦することの意義やスポーツマンシップなど人生を生き抜くための力を身につけられるような事業、達成感や感動を導き出し豊かな心が育まれる事業を展開します。

#### 【会員の資質向上】

青年会議所は成長の機会を与える団体であります。会員はいろいろな事業を経験し、自己を高め、地域のリーダーとして成長します。事業への参加を通して、物事の運営の仕方、議論の仕方を学んでいただきたく思います。その技術は今後、地域のリーダーとして活躍するための礎となります。

そして、青年会議所の魅力は同志を得て、生涯の仲間に出会える点にあります。新た

な決意を胸に青年会議所に飛び込んできた会員には絶好の成長の機会と生涯の友との出会いを提供することをお約束します。

また、会員それぞれが夢を語り、新境地を切り拓く人財の育成が必要です。なぜなら、青年会議所運動は会員一人ひとりが資本であり、原動力であるからです。地域の課題を解決するためには、会員の熱意と能力の向上が必須であり、個の成長が、必ず地域社会に対する貢献へと繋がります。

そのためには目的意識をもつということ、および失敗を恐れず自己成長を追い求めるという二点が重要です。青年会議所は自らが望めばいくらかでも成長の機会が手に入ります。そしてチャレンジすることは、今後自身の人生において必ずプラスになると信じています。

### 【新たな仲間とともに】

近年、青年会議所の人数は全国的に減少傾向にあります。これは青年の時間の使い方や価値観が大きく変わりつつあるためと考えられます。その一方で、会員拡大に成功しているLOMも多数存在し、拡大手法や成功事例も存在します。そのような事例を徹底的に調査し、会員拡大の戦略をしっかりと練る必要があります。入会時期など入会条件の検討、女性や20代の青年などターゲット層の明確化等取り組むべきことはたくさんあります。私たち青年会議所が持続可能な社会の実現のために必要とされる団体であることを認識し、求められる役割を果たし、運動を推し進めていくためには会員の拡大が必要であることを理解しましょう。そして、会員全員で当事者意識を持って新入会員を迎え入れる必要があります。「数は力」という言葉もあります。より多くの仲間とともに青年会議所運動を展開し地域に変革を起こす団体であり続けることが私たちの存在意義ではないでしょうか。

### 【組織力の向上】

力強い運動を発信するためには運営面・財政面ともに強固な組織が必要です。強固な運営を実施するためには、常識にとらわれず、先入観を捨てて運営の方法を絶えず改善する必要があります。そして、より健全な財務体質を維持するための方策を模索し、会議体としての組織の運営方法をブラッシュアップしていく必要があります。その先に健全で機動的な意思決定があり、地域に運動を発信することができるのです。

### 【運動発信によるブランディング】

奈良青年会議所は、60年の歴史の中で、常に革新的な運動を発信し、明るい豊かな社会の実現に貢献してきました。そして、行政や関係諸団体との信頼関係を築いております。しかし、その運動に対する地域からの認知度は充分ではないのが現状です。青年会議所の存在を対外的に周知するために、あらゆる手段、チャネルを通して受け手の心

に残る情報を発信していきましょう。受け手の心に残るとは、その情報を受け取る人々の考え方や行動に影響を与えるということです。運動の発信により市民意識の変革につなげ、明るい豊かな社会の実現に近づけることが最大の目的なのです。そのためには、単に行っている事業の説明だけでは足りません。なぜこの事業を行う必要があるのかを市民の皆様へ伝え、青年会議所のブランディングにも力を入れた広報戦略を策定します。

#### 【近畿地区協議会】

本年、奈良青年会議所は近畿地区協議会へ会長を輩出します。近畿地区および日本青年会議所において、奈良青年会議所の存在感を高める絶好の機会が訪れています。多くの出向者を派遣し近畿地区協議会の事業にコミットするとともに、会員を挙げて近畿地区協議会の事業に参加し、協力体制を構築いたします。また、近畿地区には5,000人を超える会員が在籍しており、各LOMの活動に触れることで多様な交流ができ、様々な強いネットワーク作りの機会となります。情報交換や交流を通して自己成長につながるとともに、スケールメリットを生かした事業にも積極的に参画し、新たな気づきを得て経験を積む場としましょう。それが会員個人の成長や、運動発信の力を強化することにつながり、奈良のまちを輝かせるための原動力になると確信しています。

そしてLOMから輩出した仲間が胸を張って誇りをもって一年間使命を全うできるように、邁進いたします。

#### 【おわりに】

昨年、奈良青年会議所は創立60周年を迎え、本年は次の10年に向けての最初の第一歩となります。時代の変化に対応し常に変革を求め、伝統として守るべきものと変わらなくてはならないものを明確にし、ともに歩んでまいりましょう。

「僕の前に道はない。僕の後ろに道は出来る。」

高村光太郎の道程という詩の一節です。挑戦する前から無理だと決めつけず、大きな夢を語り、仲間を信じて純粋に挑み続ける。その先に新しい未来が待っています。